

履正社柔整

— 開業には経営能力も必要になる。稼ぐ目的は組織の維持存続、そして発展 —

学科長 田中 雅博

このたびの震災により、亡くなられた方々には謹んでご冥福をお祈り申し上げます。また負傷された方々には、一日も早い回復を心より願っております。履正社柔整の卒業生の中には、熊本・大分出身者で開業している卒業生がおり、3人とも無事で安堵しました。復興には時間要するとはおもいますが、本校では割り箸寄金を日本赤十字社を通じて義援金として寄付を行います。一日も早く元の生活に戻られますようお祈り申しあげます。

こんにちは。桜の季節から新緑へと移り変わりました。新入生諸君は、経験したことのない医療の扉をあけ、これから未知の分野へ進んでいきます。新学年を迎えた在校生たちもおそらく同じ気持ちでしょう。人は知らない所や人との出会い、また未開地へ足を踏み入れることは知的好奇心を向上させ、成長へと導きます。パートナリズムである日常空間を斬新に、また新鮮にリニューアルもできるいいチャンスです。不安も多いでしょうが、体当たりで進んでいきましょう。小失敗を恐れず教訓として重ね、いつしか大成功を勝ち取る。将来取り返しのつかない大失敗をしないための訓練なんです。何事もひります、おそれず、トライトライ。

さて、柔道整復師は、医療、接骨、介護予防の領域においては、公的身分のものに従事します。ただ、勤務柔整師（サラリーマン）として働きますから、例えば病院なら医療免許許可種が生産労働を行い、あわせた収益から費用を差し引き、残りを分配するのです。チームで稼ぐ収益は、利益分配が原則です。当然ながら、自分が獲得した収益すべてを手にすることはできません。経費分析では、自分が獲得した収益（年齢や経験加算はなく、資格に基づく診療報酬や療養費算定）の40%ほどが給料となります。マネジメントの職位にある人（なる人）は加算されますが、一般職員相当では、まあそんなところです。ちなみに病院で勤務する医療職種の年間獲得収益を調べると、それぞれの職種の給料は簡単に計算できるでしょう

あらためてですが、柔道整復師には開業権があります。参考までに平成25年度の全国接骨院1院あたりの平均売り上げ（健康保険料収入）は約860万です。3年前までは1100万ほどありましたから、20%のダウンです。しかし休憩時間に実費制を取り入れたり、近くの通所介護施設などで非常勤の機能訓練指導員を兼務したり、あの手この手で収益減少の補完を行っており、ある統計では、柔整師の全体収益は3年前とほぼ変わらないと報告されています。さすがアグレッシブな柔整師。収益低下の改善策を講じることは必要ですし、経営者としては正しいことです。では、実際組織の経営者、ここでは接骨院の院長は何のために院を経営するのでしょうか。

当然ながら、大義として、接骨院も医療機関ですから患者の苦痛や不調を取り除き、地域住民の方々を健康に、けがや病気の治療と予防に資する役割があるのは当然です。ただ、自由経済ですから医療といえども競合他社、同業他職種の存在など、経営に影響するケースは計り知れません。このような側面から考えると、院の経営は患者利益に徹する事は当然ですが、同時に患者に選ばれて、稼ぐ存在であらねばいけません。ではなぜ稼ぐことが必要なのか、それは組織の維持存続、そして発展のためなのです。社会貢献という角度からいようと、組織の維持存続発展は、雇用の増大と納税に寄与していることになります。

しかし、いつまでも維持存続できるかというと、それは不可能です。競合他社、同業他職種が存在し、それぞれ収益力向上のために、差別化した魅力ある組織形成を目指すため、様々な資源投下をおこない、集客率を高めていくからです。すなわち、常に追いつかれないようにリサーチしておかないと、存続だけで満足しておれば、いつか追い抜かれ、やがて破たんします。

進化や発展を遂げるために必要なもの、それは資本です。収益を改善させ向上している途上で、次にどんな資源投下（投資）を行い、集客率（販売力）を高めるかを考えておかないといけません。つまり、内部留保の比率をあげて資本力を強化しておくのです。資本力があれば、資金調達も可能であり、そこから経営戦略が構築でき、あらたな発展が期待できます。資金を社長やオーナーの娯楽で消費すると、破たんしてしまうでしょう。

開業し、院をうまく維持存続発展のために必要なこと。柔整という医療技術と環境整備、そして経営能力なのです。当面は臨床現場で医療技術をしっかり身に付けてください。いつか自信ができたら、開業のコンサルをしましょう。在校時からでも結構ですよ、将来の夢を実現するため、具体的なストーリーを提供しましょう。



＜各学年の動き＞

1年生：入学おめでとう。まだまだ緊張感が抜けないとは思いますが、自分の目指した道へ、しっかりと歩みを進めていって下さい。悩んだ時はいつでもカモン！！「報告・連絡・相談」“ほう・れん・そう”です。勉強でも恋愛でもなんでも構いません。今からおいていかれないように頑張りましょう。（竹）

2年生：春になり2年生になりました！！！いよいよ楽しみにしていた《アメリカの解剖実習》に6月14日（1班：午後部）、21日（2班：午前部）に行きま～す。スポーツで有名なロサンゼルスのロングビーチ大学を拠点に、医科大学などで解剖学を中心に勉強してきます。今の班で膝や肩、腰などのアスリハについて調べ実習の講義前に発表する予定です。はやくこいこい海外研修♪♪（福）

3年生：現在3年生は、午前部は8時から午後部は16時50分からそれぞれ70分程度補講を実施。さらに毎日授業が始まる10分前から、小テストを行っています。これは今年の目標である「柔道整復師になる。就職する。地域に貢献する柔道整復師になる。」を達成するためです。担任桃井、副担任三村、青木、この3名でバックアップしていきます。皆それぞれ乗り遅れないように、気合いを入れてこの1年を過ごそう！（桃）

＜平成27年度 卒業証書授与式＞

某有名アーティストグループの歌の題名にもあります、3月9日に卒業式が終わりました。

柔道整復学科としては12期生の卒業です。国家試験まもなく式で、結果はまだ未知なもの、思い思いの表情で卒業式に参加していました。3年間の学生生活、最後の関門である国家試験前日まで連日遅くまで学校に残り、勉学に励んでいた姿が心に残っています。「おめでとう！」、「次、頑張ろう！！」。結果は違えど社会に出て活躍することを願っています。

次は新入生の入学式だ！教員は、毎年このループ。別れと出会い。年々、顔と名前を一致するのに時間が…



開式前のひととき



全国柔道整復学校協会賞を授与された棚田君



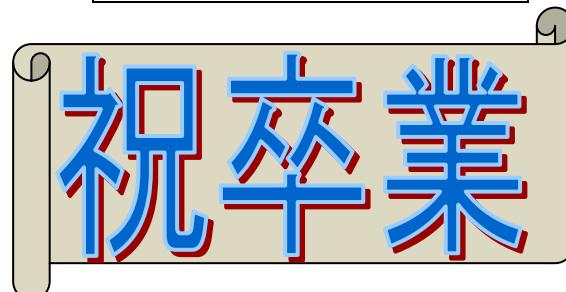
校友会入会宣誓を読み上げる杉本君



柔道整復学科12期生



似顔絵入りメッセージボード



謝恩会にて

＜平成28年度 入学式＞



桜サクサク、4月5日、天候にも恵まれ快晴の入学式となりました。柔道整復学科は60名の新入生、専門学校としても前年より数十名多い、にぎやかな入学式となりました。そんな舞台裏をご紹介すると…。入学式は学校の体育館で行われ、前日に教員総出で準備が行われます。シートを床一面に敷き、椅子を並べ、舞台を設置し、紅白幕を壁一面に掛けます。会場準備も大変ですが、最も重要なのは、入学者の名前の読み上げです。柔道整復学科では、3年生まで同一担任制であり、3年が終わると、新たな1年生の担任となるのが通常です。卒業式での名前の読み上げは、呼び慣れた名前なのですが、新入生は読み間違えると3年間ネタにされてしまうなんてことも…。

教員の間では、新入生の担任の読み上げを耳を澄まして聞いているとか。恐ろしい…。



校長先生の式辞

名前を呼ばれて返事をする学生

柔整科のイケメンズ？？笑

＜日体協公認アスレティックトレーナー検定試験＞

平成27年度日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目検定試験実技試験【後期】の結果が発表されました。国家試験と同時期に行われる試験の為、その対策には毎年苦戦するのですが、学校全体では8名、柔道整復学科からは4名（うち既卒1名）の合格者が誕生！

AT試験は年間・全国約2000人が受験し、毎年250人程度のATが世に輩出されています。その合格率は約15%前後で、難関と言われています。しかし、2020年に開催される東京オリンピックに向けて、日体協はATを増やす意向を発表しています。実際に、平成24年度の筆記試験過去問の公開以降は、試験の合格率は年々増加傾向にあります。（以前は合格率10%以下とも…）

ということは！AT資格を取得するには今がチャンスという事になります！

本科との両立は大変ですが、今から努力を続けていけば柔整ATのW取得は決して不可能ではありません。在校生の皆さんは今回の合格者に続けるようにしっかり勉強していきましょう！

【平成27年度（後期）合格者名】（ ）内は卒期

杉本 広樹(12期)、棚田 恭平(12期)、篠浦 達智(12期)、加用 麗香(9期)おめでとうございます！！

＜第24回柔道整復師国家試験＞

第24回柔道整復師国家試験が平成28年3月6日に実施され、同月28日(月)14:00に合格発表が行われました。今回の全国平均は64.4%で過去最低の合格率、そこで、国家試験対策委員として合格率低下の原因を考えてみました。第1回～第12回の合格率全国平均の平均が83.5%で、第13回～第24回の合格率全国平均の平均が71.8%でした。合格率が低下した原因の一番は第13回から必修問題が開始されたことだと考えます。



また、出題傾向にも注目すると、近年はより基礎知識からの応用問題、いわゆる臨床的な問題が多いと思われます。ひと昔前の勉強方法であった過去問だけを解いているだけでは、国家試験合格は難しい現状になってきました。

しっかりと基礎知識から勉強を行い、色々な問題に対応できるようにしましょう！

＜やわらの窓口＞

頭脳派&体育会系&ロマン派諸君のために、成績不良、進学、受験（大学および大学院進学）、接骨院（運営コンサル）&デイ開業、恋愛&結婚、出産&子育て&介護保険まで、全てのコンサル、24時間窓口を開いています。思い立ったが、次のアドレスへ、ゴーゴー、ヒューヒュー tanaka@riseisha.ac.jpまで

＜語録「履正林」＞



1. 履正社スポーツ専門学校 北大阪校

この4月に開校する履正社学園4つ目（中学、高校、専門学校）の学校。分校ではなく本校とは別学校になる。校長は本校と同じく釜谷等校長。箕面市にある幻の履正社大学開学予定地にあり、先に野球とテニスのグランドが整備されており、6月には本格始動する。一度視察に釜谷校長と同行した際にこんな質問をした。『釜谷校長、箕面の森林の緑がまぶしく、お猿さんがでそうな、自然豊かで学習環境には最高ですよね。しかし、人気や交通量も少ないし、なんせ高速入口が遠いですよねえ』に対し『田中君、ここには偶然、新名神高速道路のインターチェインジができるんだよ、はっは、いつかはにぎやかになる』。MBA（経営学修士）として、偶然かどうかの経過を分析したいが、これ以上できない悔しさは誰にもわからない。

2. 柿渋工場

履正社の北西には阪急宝塚線が通っているが、その対向いに柿渋の工場がある。ハロウィンのパンプキンフェイスに似た、橙色のマスコットキャラクターが看板に掲げてある。十三らしくないキャラだが、開学時から学生の間には静かなトレーディングがある。生産時期だろうか、春と秋には校舎周辺に特別な臭いがただよう事がある。果物のようなフレッシュな臭いではないが、柿のにおいと言われたら、ら、そうかもしれない。それは不思議なせいだ。お酒が大好きなM先生は、『柿焼酎ってないですよね、柿渋買ってきて、焼酎会社作りましょうか』と、職員室でお昼の休憩時間にお酒の話で盛り上がるのをみて、M先生の体調と職員室という聖域で交わされている話題に、双方に何か起りはしないかと、事実上学科のマネジメントをされているT先生の心労は続く。

3. リスクマネジメント

どのような社会でも仕事でも、また生活においても安全管理、危機意識を持つことは大切なこと。しかし、医療職においては、患者さんの正確な状態把握は不可欠で、特に生命意識に関する異変がある際には、いかに正確に、早期に状態をつかむかで予後が大きく変化する。実技試験の評価で重要配点にあるのは、全身と末梢の知覚循環状態確認。試験対策担当のM先生やN先生は常に学生たちに『ばかもーん、血圧低下なし、表情顔色変化異常なし、と確認せんか。意識消失、転倒したらどうすんだよ、循環器系神経系のチェックしろよ』と激を飛ばされている。しかし私生活が食生活の乱れか、両先生は重い痛風の症状がある。それを知る学生は『あの先生たちには言わせたくないよな』と、エレベーターでささやいていた言葉に反論は苦しい。

4. 卒論ゼミコンペ

昨年10月から2年生の卒業論文作成がスタートし、指導教官も決まった。履正社柔整の卒論は大学に勝るとも劣らないレベルと内容だ。卒論ガイダンスから始まり、論文作成要綱、論述順序、根拠確定のためにデータ収集、表グラフなどのビジュアルデータ加工、他もろもろ。具体的な進行は各教官にゆだねられているが、演習形式（ゼミ）で作成を進行される先生も多い。演習プレゼンにおいては、厳しい評価や指導もある。ただ、十三の赤ちようちんで、ゼミ生と酒を交わして未来を語り和やかな、ゼミコンペも開催する。男子学生だけのゼミを受け持つTT先生は先日職員室で『うちのゼミ、今度コンペやります。他の先生方のゼミと合コンしますか』という問い合わせに、『ハイ参加します。しかし、ゼミ生は連れていきません。先生、私たちも田中先生のゼミ出身ですから、元ゼミ生という立場で参加します、ごちそうさまです』この一言に、子弟関係を逆手にとった、世情の恐ろしさを感じたのは言うまでもない。

5. 柔道整復療養費検討専門委員会

漢字が羅列した、なんやらむつかしそうな委員会の名称だが、社会保障審議会医療保険部会という保険を取り扱う資格者に対して、その価格設定や算定をどうするのかという議論を行う公的な場。決定した内容は厚生労働省の以降の施策に大きく影響し、事実上の決定機関である。今回は、年度内に第4回目の会議が行われ、取り扱う療養費について審議される。この度は受領委任払い制度が議題に上がっている。臨床教員のF先生は『いつもなんやかんやで、まとまってますよね。また政治家の先生に力を發揮してもらいましょう』と楽観的だが、今回は和やかに収まりそうにない。危機的状況を乗り越えられるか、投げられても、落とされても這い上がり立ち向かう、柔らの精神DNAで乗り越えたい。

＜タナカジャーナル＞

『プロ選手は、自らの行動が社会に与える影響をどう考えているのか』

元巨人軍、清原和博選手が覚せい剤取締法違反で検挙された。また、現役選手も、試合前に円陣の声出し選手へ勝利した際に祝儀を渡していたという。その後、野球賭博も再発覚した。大きな社会的影響を与えたと言ってもいいだろう。今回のテーマを取り上げたのには、意味がある。本校も入学者

の半数以上が野球経験者であり、また姉妹校の履正社高校は、過去5回の甲子園出場を果たし、出身者のヤクルトスワローズの山田哲人君は、昨年トリプルスリーの偉業を成し遂げた。学校のイメージは、履正社イコール野球といつても過言ではなかろう。

私事ではあるが、息子二人も小学生から大学まで野球を続けた。試合で活躍することも重要だが、継続することは親も子も異常なほどの、カネと時間と忍耐のエネルギーが必要である。おそらく日本全国の野球家族には共通文化なのだろう。なのに、なぜ親子は野球を続けるのか。それは、そこに子供たちが理想とする姿があり、夢や希望が存在するからだ。つまり、野球を続ける目標体がプロ野球選手であり、その努力は同時に心身の育成にも一役買っている。ならば、プロ野球選手がとるべき行動は説明するまでもないだろう。プロ野球選手としての存在と行動を常に振り返り、社会に及ぼす影響を意識してほしい。子供たちの心身の育成にまで影響を与えるかもしれない、特段の存在であることを自覚してほしい。

